

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190200667), 法人名 (社会福祉法人 三章会), 事業所名 (もえれの家屯田よしお館), 所在地 (札幌市北区屯田7条5丁目2-20), 自己評価作成日 (平成29年8月3日), 評価結果市町村受理日 (平成29年9月11日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は静かな住宅の中で、街近くに公園に気軽に出入りできる環境にあり車椅子での散歩もしやすい。屯田小学校、近隣中学校の通学路に位置し、札幌では子供の人口が多い地域であることもあり、日常的に楽しげな児童たちの声が聞こえる。隣の畑、近所のお庭の野菜や、花を通じて地域の方々との交流する事が出来き、四季を感じて生活が出来ている。理念を重んじ実践につながるよう理念を反映させた年間の目標を毎年作成し、職員の意見や入居者、家族の希望に添えるよう日々取り組んでいる。見学、実習も積極的に受け入れ、学生の学びの場としても地域に開かれた事業所であるよう、毎年、職業体験の場として中学生の受け入れをし、また、将来の福祉の担い手の育成、認知症の方が暮らしやすい地域づくりに役立てるよう努めている。町内会行事やお祭りへの参加を通して地域の中の事業所としての役割をさらに意識していくため努力している。職員の教育にも力をいれ、事業所、職員一人一人の目標を定めて計画的に勉強会を開催し、職員一人一人のレベルや学びたいことと一致している事に合わせて外部研修に積極的に参加できるように勧め、受講している。資格取得がしやすいように就業環境に配慮、受験者のための講座を開く等している。開所14年目を迎え、入居期間が長く、身体的にも重度化している方も多く、最後まで安心してこれまでの穏やかな生活が継続できるように。往診医、各主治医と密に連携し、アドバイスを受けつつ、家族の意向も最大限に活かせるよう、段階的な話し合いを持って方針に合わせたターミナルケアにも取り組んでいる。職員の定着率も高く、入居者と長い年月を共に過ごして、言葉を超えた絆を感じながら日々のケアに当たっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_02_2_kihon=true&JigvoCd=0190200667-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成29年8月17日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常の介護の現場やケアプランの検討時には理念を踏まえた考え方が出来き実践できるように管理者と職員は話し合っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、町内会の一員として地域の行事に参加交流している。近隣の方々とは、日ごろから挨拶を交わし交流している。緊急避難時には支援の協力をお願いしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	屯田地域の研修会で寸劇をして認知症についての勉強をする機会に参加したり、管理者が認知症介護指導者として研修会、サポーター養成、地域の会議に参加貢献している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で利用者の生活の様子や、活動状況を写真、ビデオなども使い報告している。参加者からの意見は真摯に受け止め、サービスに取り入れている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	調査、アンケートの提出、事業運営に関する届け出等の相談連絡を密にし、全市、または北区管理者連絡会議に出席したり、認知症地域支援推進委員との交流を持つなど協力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には身体拘束についての研修や勉強会で学ぶ機会をつくっている。玄関の施錠についても認識を持ち自由に外出できる機会を持つようにしている。センサーなどの必要性についてもご家族に説明し納得いただいで使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会の機会を持ち学んでいる。勉強会ではチェックリストを使ったり不適切な言葉づかいなど具体的な場面で注意が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度利用、日常生活支援事業等の利用をしている方が数名おり、後見人の方との直接のやり取りを通して実践的に権利擁護の必要性を学んでいる。また制度理解のためにパンフレット等の資料を見られるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書、重要事項説明書を実際の運用の場面の事例を引用して説明するなど、より内容がわかりやすいように説明し、入居してからの生活をどのようにして支えてゆくか想像できるように疑問に答えつつお話ししている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族も出席しやすいようにあらかじめ年間の日程をお知らせし、開催前には内容をお知らせして出席を促したり、お話しして出席できない場合もご意見をいただく機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談、申し送り、カンファレンス等で話を聞く機会を設けており、直接的な意見ではなくても運営上必要な事柄について事業展開に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働状況については管理者を通して実績を確認してハード面、ソフト面での環境整備を進めている。給与水準、福利厚生等の改善が実施され、全体の水準が向上している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の意欲やOJTを通して必要と思われる知識の習得や学習は外部での研修に参加してより実践内容の理解や質の向上が図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	屯田地域の事業所、福祉施設、医療機関、地域住民との連携ネットワークに積極的に参加し、地域の福祉力の増進を図るために活動している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者によるアセスメントの情報を元に対応している。その後は職員間での情報を共有し、安心して生活できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを元にしながら、来訪時には心配や困っている事が無いか声を掛けるよう努めており話し易い雰囲気作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人、そして家族の一番必要としている支援を行い、その他例えば必要な医療機関の受診など段階を踏んで支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中での活動や作業を一緒に行いながら、共に過ごす時間を通して信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、家族会の機会に情報を交換し本人の気持ちや家族の気持ちを受け止め、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟やご親戚、知人の来訪時には遠慮なく過ごしていただいている。また身内の冠婚葬祭に出席できるよう外出支援も行っている。ドライブの行き先はなじみの場所に行けるような計画を心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う、合わないがあるのでお互いの関係を考えて関係が悪くならないように配慮しています。利用者同士では難しい方の場合は職員が関わる機会を作り孤立しないように支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者、計画作成担当者が必要な相談に乗り支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の申し送りやカンファレンス時に職員同士で話し合い利用者それぞれの思いや希望の把握に努めている。困難な場合は本人の立場に立って話し合いを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより把握、安心して生活できるよう努めている。これまでの生活を継続が出来ていない方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	断片的に捉えていることが多く、一日の過ごし方を総合的に捉えることが出来ていない。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化に注意し、変化が見られた時にはモニタリング、アセスメントを行いケアプランを作成している。またご家族や医療関係者の意見を頂きプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果について記録に残しているが不十分な部分があるので、ケアに必要な記録の書き方について学び、ケアプランに活かせるようにしたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージ、訪問口腔ケアを受けていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商業施設の、馴染みの美容室を利用している。避難訓練には消防の方に参加していただいている。警察の方には運営推進会議に参加していただき防犯上の注意点など伺い支援に役立っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の合意の上かかりつけ医の受診を支援している。希望があれば馴染みの医師の受診を支援し、専門医の受診支援も適切に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週で訪問看護に来ていただいた際に、健康管理から気軽な相談まで協働で支援している。医師に都度報告して頂き受診の指示など適切な支援が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度該当する事例がないがそうした場合に備えておく必要がある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	管理者、、ご家族、主治医との話し合いの中で事業所として出来る事を明確にしご家族の納得の上で支援している。職員、ご家族、主治医と連携し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修を受けている職員もいるが、定期的な訓練が出来ていないので身についていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが実践できるか不安に思っている職員が多い。繰り返し身に付くまで行う必要がある。町内会、ご近所との訓練時に参加していただき協力体制が出来ている。飲料水、食料の備蓄をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや態度に気をつけて、尊厳やプライバシーを侵害しないようにしているが、時には不適切な対応になる事がある。職員同士確認しあう機会をつくる事が必要である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを聞く機会は少なく、職員が決めてしまうことが多い。今後は本人が自己決定できるよう心がけていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側のスケジュールになっているが、その日の体調や気持ちに合わせ無理なく過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型など本人の好みを聞き、分からない時には家族に伺うなど支援している。洋服を選んでもらう事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、盛り付け、食器拭きを行って頂いている。出前、鍋料理の時は職員も一緒に食べ食事の時間が楽しい時間になるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の必要量に合わせ、無理なく取れるように、好みを把握、一回の量、器や提供の場面などを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、入床時に声掛けし、不足部分を介助している。まだまだ本人の力がある方には毎食後に声掛け出来るようにしていきたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズム、パターンを把握し、時間に拠る誘導を行っている。様子や行動を観察し兆候が見られた時にトイレに座っていただき自立に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の原因に合わせ食事の内容、水分の勧め、ヨーグルトなど乳酸菌の提供、散歩、館内歩行、階段昇降、体操等運動の声掛けを行い対応している。また医師、看護師に相談し下剤の調製、変更をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入り易い時間帯に声を掛けるよう配慮している。本人の希望する時にはなるべく入っていただき気が進まない時に無理はしないようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休んでいただいたり、夜間の入眠状況に合わせて起床時間を遅らせる等配慮している。また本人の生活習慣に合わせて就寝していただいている。不安を感じている方には安心できるよう傾聴をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用についての理解が不十分な部分があるので今後は勉強会で理解を深めたい。誤薬や飲み忘れには職員で話し合いマニュアル都度変更し防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方に家事をお願いすると「女らしい事が出来てよかった」と役割と感じていただいているようです。字を書くことが得意な方にメニュー書きや書写をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画的に季節のドライブに出かけている。ご家族に協力をお願いし散歩に出かけている方がいる。今後は職員だけでは難しいので地域の方の協力を検討していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方はいない。今後は一緒に出かけ支払い時に使っていただけるよう支援したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望する時に電話をしていただいている。かかってきた時は居室でゆっくりと話していただき、手紙が届いた時は見守りし読んでいただき関係が継続できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせ季節の飾りつけや花を植えるなど居心地良く過ごせるようにしている。エアコンの風など不快に感じたり、寒がる方もいるので直接あたらないようにするなど配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置やソファの向きなどを工夫してストレスの原因に注意している。気の合う同士が過ごす時間をつくる事も行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や好みの装飾をで心地よく過ごしていただいている。家族の写真やアルバムを見て安心して過ごしていただけるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かるように表札や本人の写真を。トイレには遠くから見えるよう表記をしている。夜間帯にはスポットライトで認識し易くしている。		